

# 諏訪の景気動向

2019年8月

(2019年7月末D・I調査)



塩嶺王城パークラインより望む (岡谷市)

《2019年8月30日》

## 諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

電話 0266-23-4567(代) FAX 0266-23-8044

## 諏訪地方の景気動向（2019年7月末調査）

「2019年7月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方 163 社のご協力を得て行った 2019 年 7 月末の「景気動向調査 (DI 調査)」は、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 DI は  $\Delta 9.2$  となった。前回調査時 (2019 年 4 月末、以下同) の  $\Delta 6.7$  より 2.5 ポイント悪化した。前年同月比でも前回の  $\Delta 20.2$  から  $\Delta 34.3$  へ悪化幅が広がった。製造業の業況判断 DI は  $\Delta 16.7$  で、前回の  $\Delta 15.2$  より悪化した。非製造業 (商業、観光・サービス業、建設業) の同 DI も 8.2 で、前回の 11.3 から悪化した。一方、「3 ヶ月後」の業況予想 DI は、製造業が  $\Delta 7.0$  (前回  $\Delta 13.8$ ) とやや改善したが、非製造業は 8.2 (前回 17.7) と悪化し、回答全社では  $\Delta 2.4$  (前回  $\Delta 3.6$ ) となった。マイナス水準になっている製造業をプラス水準の非製造業が補う形となっているが、非製造業も天候不順などの影響を受けて伸び悩んだ。

米国と中国が互いに関税をかけ合う貿易摩擦は 7 月で 1 年が経過したが、収束の気配は見られず、米国は 9 月から行う第 4 弾の追加関税を発表している。長期化する米中対立や中国経済減速などの影響で世界経済が減速し、日本経済の下押し圧力となっている。内閣府発表の 4~6 月期の GDP 速報値は年率換算で 1.8% の増加だったが、外需は輸出が 2 四半期連続のマイナスとなり、諏訪地方の製造業にも影響をおよぼしている。

製造業は業況判断 DI が 3 ヶ月前に比べて前回の  $\Delta 15.2$  から  $\Delta 16.7$ 、受注状況 DI も  $\Delta 21.3$  から  $\Delta 28.1$  と悪化している。前年同期と比べると、10.5% の企業が好転しているが、56.1% の企業が悪化した。業況判断 DI は前回の  $\Delta 32.0$  から  $\Delta 45.6$ 、受注状況 DI は  $\Delta 31.3$  から  $\Delta 46.4$  と悪化が顕著になっている。米中貿易摩擦をきっかけとした世界経済の影響で、4~6 月期は電子部品や工作機械、自動車、FA 機器の大手企業が軒並み業績を落とし、投資を足踏みする動きもある。諏訪地方の企業はこの影響で、予定されていた案件の計画中止や延期が見られる。米中貿易摩擦の影響は、3 ヶ月前との比較で「多大」と「多少」を合わせて 71.1% (前回 60.8%) の企業が感じている。月によって受注が変動し、先行き不透明感が強まっている。

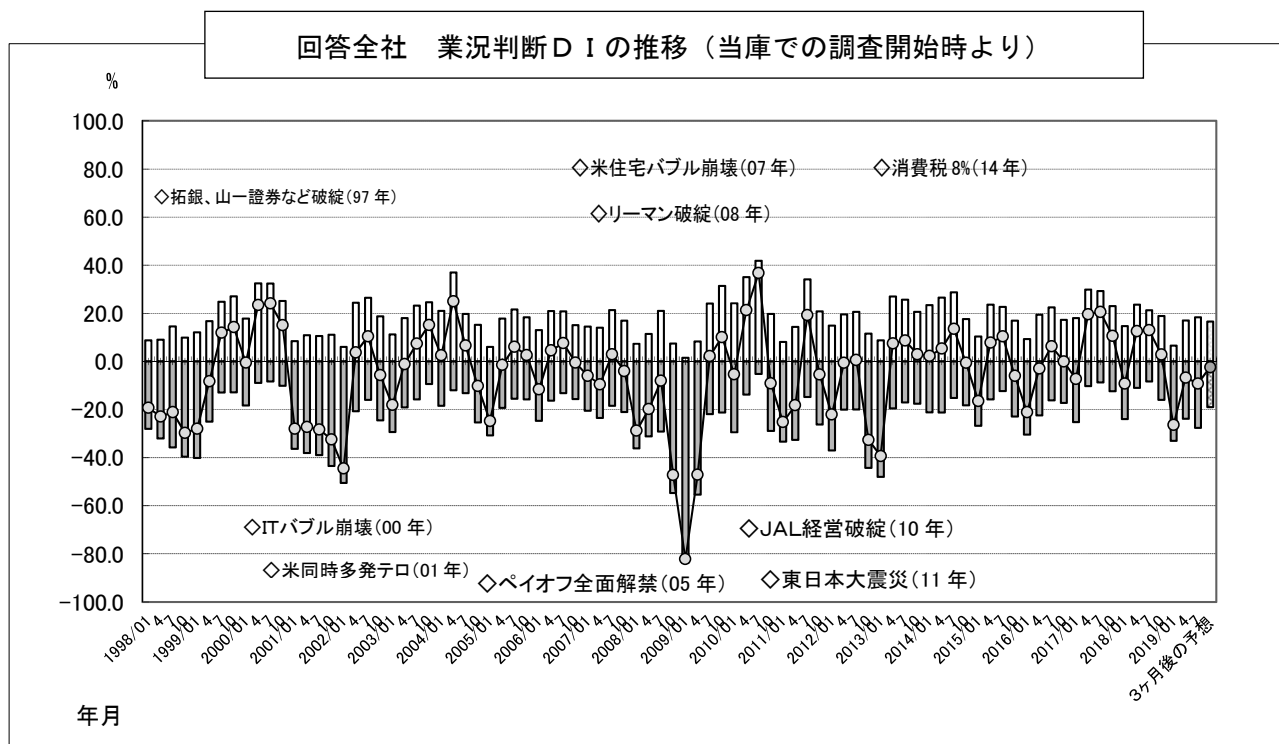
商業は「3 ヶ月前」と比べ、業況判断 DI は  $\Delta 12.0$  で前回の  $\Delta 3.7$  から悪化した。客単価 DI が前回の 11.1 から  $\Delta 8.0$ 、来店客数 DI が前回の  $\Delta 3.7$  から  $\Delta 24.0$  へ悪化した。「前年同期」と比較すると、業況判断 DI は前回の  $\Delta 14.8$  から  $\Delta 16.0$  に悪化している。梅雨明けが遅く、長雨や低温が続いたことが客足に影響し、夏物衣料や清涼飲料、氷菓、スイカなどの夏果実の売上が振るわなかった。また、身近な物の物価上昇で消費マインドは低下している。さらに、消費増税を迎える「3 ヶ月後」の予想は、来店客数 DI が前回の 0.0 から  $\Delta 24.0$ 、売上 DI が 14.8 から  $\Delta 28.0$ 、収益性 DI が前回の 14.8 から  $\Delta 16.0$  へ悪化し、業況判断 DI は前回の 14.8 から  $\Delta 12.0$  と大幅な悪化予想となっている。

観光・サービス業は、本格的な行楽シーズンとなり、「3 ヶ月前」と比較した業況判断 DI は 63.6 で、前回の 30.7 から大幅に好転したが、「前年同期比」では 9.1 (前回 53.8) と悪化した。諏訪地方の今年の梅雨明けは 7 月 29 日ごろで、天候不順の上、週末に雨が続いた。6 月に梅雨が明け、7 月は全国的な猛暑で、避暑の来訪者が急増していた前年に比べ、天候の影響が大きく出た。宿泊施設では予約のキャンセルがあり、屋外施設の利用は低調だった。首都圏の気温が上がらず、別荘客の来訪も遅れた。ただ、梅雨明け以降は一転して猛暑が続き、

観光地は避暑客などでにぎわった。「3ヵ月後」は増税が懸念材料となり、業況判断予想DIは36.4(前回61.5)、客単価DIは9.1(同38.5)、宿泊客数DIは27.3(同45.1)にとどまっている。

**建設業**は、「3ヵ月前」と比べた業況判断DIは0.0で前回の20.0から悪化した。受注状況DIは15.4で前回とほぼ同様だった。「3ヵ月後」の業況予想DIは、23.1で前回の△5.0から好転した。従業員数評価は、3ヵ月前との比較で30.8%が不足とし、人手不足が続いている。諏訪地方の2019年6月の新設住宅着工戸数は103戸で、前年同月比12戸減少(△10.4%)した。2019年4月～6月の累計着工戸数は346戸で、前年同期比124戸増加(55.9%)した。7月の市町村からの受注工事は合計94件4,352百万円で、前年同月比で件数は1件減少したが、契約金額は諏訪南リサイクルセンター建設で3,195百万円増加した。4～7月に地元業者が受注した国県関係の公共工事の累計は56件2,743百万円で、前年同月より件数、金額とも増加している。

**雇用状況**は、2019年6月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を0.09ポイント下回り、前月を0.01ポイント上回る1.54倍だった。今年度に入り、3ヵ月連続で前年同月を下回っている。1倍台の維持は63ヵ月連続となっている。長野県内は1.65倍で4ヵ月ぶりに悪化し、全国は1.61倍で2ヵ月連続のマイナスとなった。諏訪地方は、新規求人数(全数)が1,534人で前年同月比125人減少(△7.5%)し、新規求職者数は643人で前年同月比67人減少(△9.4%)している。産業別の前年同月比の新規求人数は、その他サービス業で9.5%、卸・小売業で1.3%増加し、製造業で20.1%減少した。求人要因別は、「継続する人員不足」「業務量増大」「欠員補充」「創業・新分野展開」の順となっている。1件10人以上の人員整理は0件で、事業主都合による雇用保険資格喪失者は48人で、前年同月より31人増加し、前月より20人増加した。



## 業況判断DIの推移 「3ヵ月前と比較して」

回答全社(163社)の「3ヵ月前」と比べた業況判断DIは、「好転」企業 18.4%、「横這」企業 54.0%、「悪化」企業 27.6%で△9.2となった。前回より好転企業が増加したが、悪化企業も増加した。前回調査時点の3ヵ月後の予想DIは△3.6で、予想より悪化している。製造業は、「好転」企業が前回の13.0%から14.0%へ増加したが、「悪化」企業も28.2%から30.7%へ増加し、DI値は前回の△15.2から△16.7へ悪化した。非製造業は、「好転」企業が前回の25.8%から28.6%へ増加し、「悪化」企業が14.5%から20.4%へ増加した。内訳は季節要因で観光・サービス業の業況判断DIが63.6で前回の30.7から32.9ポイント改善し、商業は前回の△3.7から△12.0へ悪化した。建設業は0.0で前回の20.0から悪化した。

産業別業況表

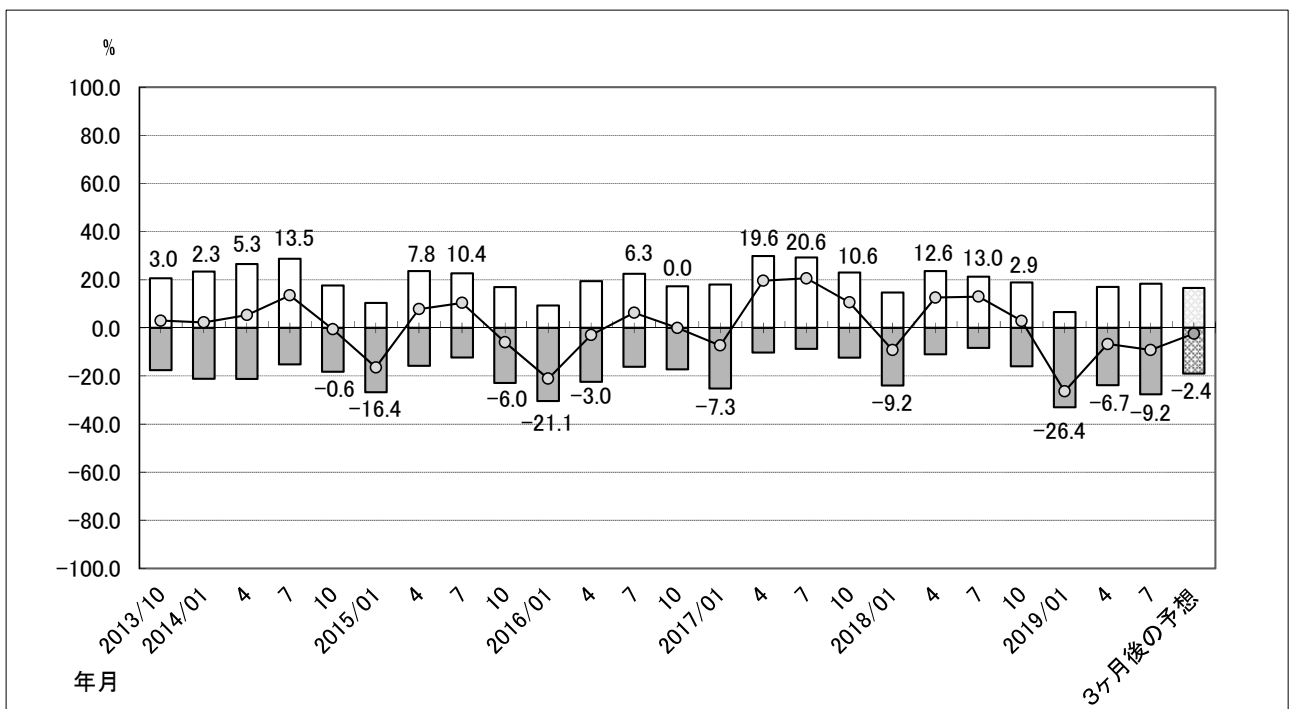
(企業数・%) 表-1

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	163	18.4	54.0	27.6	-9.2	163	12.9	39.9	47.2	-34.3	163	16.6	64.4	19.0	-2.4
製造業	114	14.0	55.3	30.7	-16.7	114	10.5	33.3	56.1	-45.6	114	13.2	66.7	20.2	-7.0
非製造業	49	28.6	51.0	20.4	8.2	49	18.4	55.1	26.5	-8.1	49	24.5	59.2	16.3	8.2
商業	25	16.0	56.0	28.0	-12.0	25	12.0	60.0	28.0	-16.0	25	12.0	64.0	24.0	-12.0
建設業	13	15.4	69.2	15.4	0.0	13	15.4	61.5	23.1	-7.7	13	30.8	61.5	7.7	23.1
観光・サービス	11	72.7	18.2	9.1	63.6	11	36.4	36.4	27.3	9.1	11	45.5	45.5	9.1	36.4

## 自社業況判断DIの推移

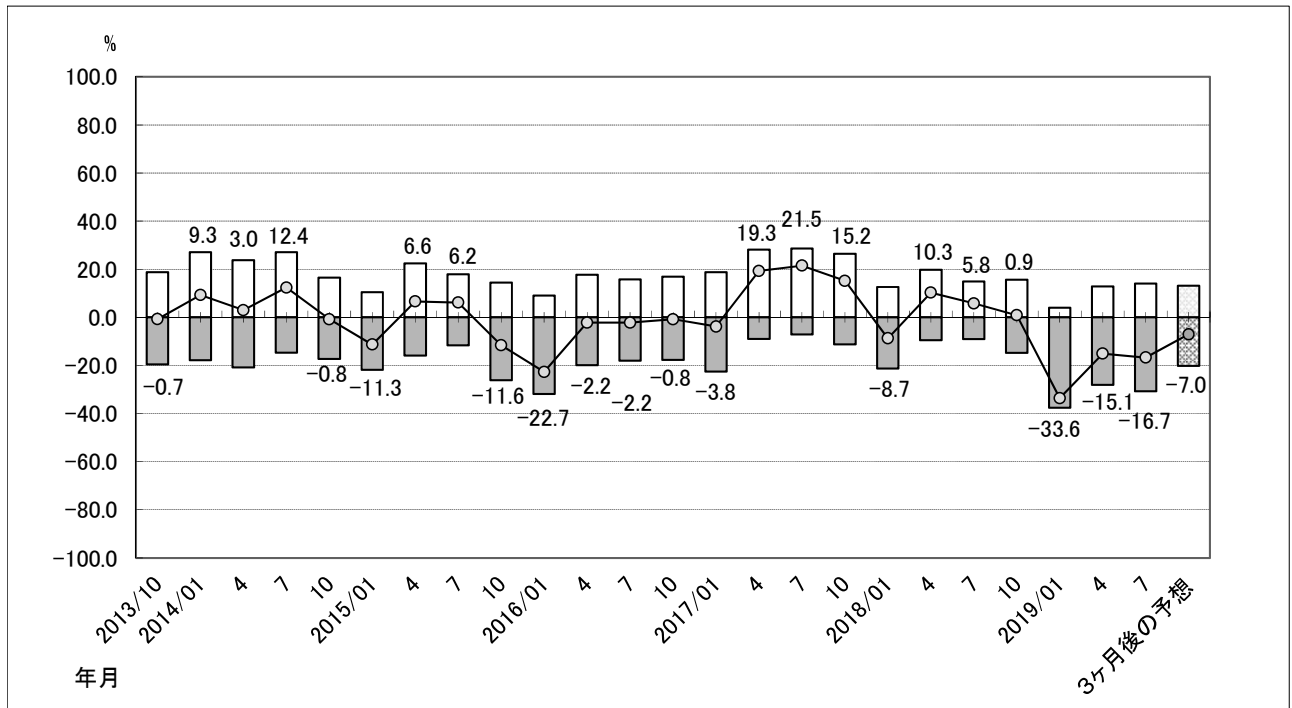
### 回答全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-1



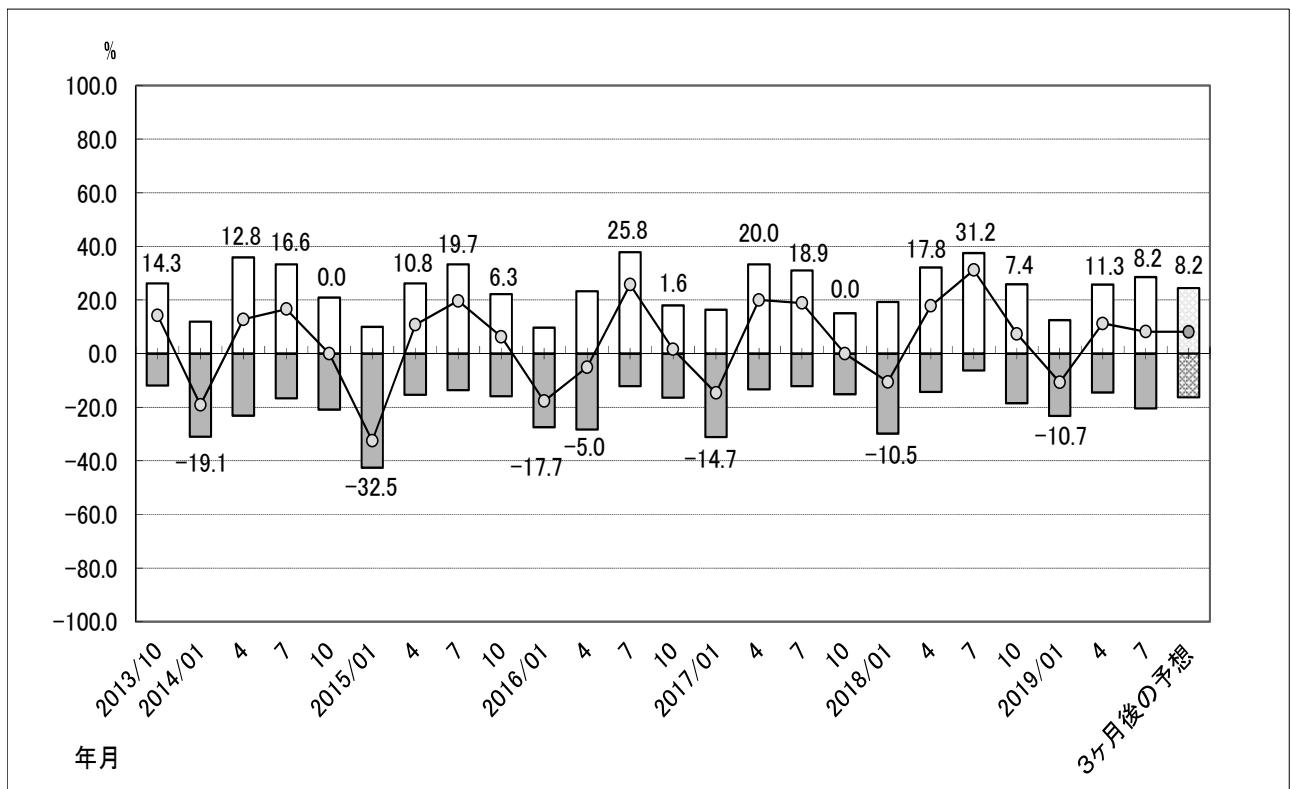
●製造業:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



## 産業別景気動向

### 1.製造業

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べ△16.7で、前回の△15.2から悪化した。「前年同期比」は、好転企業が減少し、悪化企業が増加したため、△45.6と前回の△32.0から13.6ポイント悪化幅が広がった。「3ヵ月後」の予想は△7.0で、前回の△13.8から好転した。

設備投資DIは、「3ヵ月前」に比べて0.9で前回の6.8より悪化した。「前年同期比」も改善傾向だった前回の14.4から△7.0へ悪化した。先行きの不確定要素が多くなり、設備投資をためらう企業も見られ、「3ヵ月後」の予想DIは3.5で、前回の6.1から悪化した。

収益性DIは、「3ヵ月前比」で△26.3と前回の△16.0から10.3ポイント悪化し、「前年同期比」は前回の△29.0から△30.7へ1.7ポイント悪化した。「3ヵ月後」の予想は△10.6で、前回の△14.5からやや改善している。

業種別(主要5業種)の業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて、「精密機械」が△9.1(前回△20.0)、「電気機械」が△6.3(同△9.1)、「一般機械」は△14.8(同△22.2)、「輸送用機械」は△15.4(同△20.0)と改善したが、「金属製品」が△36.4(同△22.2)と悪化した。

「前年同期比」では、「金属製品」が△57.6(同△30.5)、「電気機械」は△31.2(同△22.7)、「輸送用機械」が△46.2(同△33.4)、「精密機械」は△63.6(同△33.4)といずれも悪化し、「一般機械」は△51.9で前回と同率だった。

「3ヵ月後」の予想DIは「電気機械」△6.2(同△13.6)、「一般機械」△7.4(同△29.6)と好転したが、「金属製品」△9.0(同△8.3)、「輸送用機械」△7.7(同△6.6)、精密機械0.0(同△13.3)と悪化した。

世界経済の悪化に伴う大手企業の業績悪化とともに、地域企業に対するコストダウン要請も徐々に強くなっている。50%のダウン要請があった企業もあり、応じきれない下請け企業が増えている。海外メーカーとの競合もあり、今後も続く見通しとなっている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	114	14.0	55.3	30.7	-16.7	114	10.5	33.3	56.1	-45.6	114	13.2	66.7	20.2	-7.0	
規模	1~29人	59	13.6	47.5	39.0	-25.4	59	6.8	33.9	59.3	-52.5	59	6.8	69.5	23.7	-16.9
	30~99人	40	17.5	57.5	25.0	-7.5	40	15.0	35.0	50.0	-35.0	40	22.5	62.5	15.0	7.5
	100人~	15	6.7	80.0	13.3	-6.6	15	13.3	26.7	60.0	-46.7	15	13.3	66.7	20.0	-6.7
分類	金属製品製造業	33	12.1	39.4	48.5	-36.4	33	9.1	24.2	66.7	-57.6	33	15.2	60.6	24.2	-9.0
	一般機械器具製造業	27	14.8	55.6	29.6	-14.8	27	7.4	33.3	59.3	-51.9	27	14.8	63.0	22.2	-7.4
	電気機械器具製造業	16	12.5	68.8	18.8	-6.3	16	18.8	31.3	50.0	-31.2	16	18.8	56.3	25.0	-6.2
	輸送用機械器具製造業	13	7.7	69.2	23.1	-15.4	13	0.0	53.8	46.2	-46.2	13	7.7	76.9	15.4	-7.7
	精密機械器具製造業	11	9.1	72.7	18.2	-9.1	11	0.0	36.4	63.6	-63.6	11	0.0	100.0	0.0	0.0

## ① 諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

### ● 金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは「3 ヶ月前」と比べ $\Delta 36.4$ で、前回調査時の $\Delta 22.2$ から悪化し、「前年同期比」は $\Delta 57.6$ (前回 $\Delta 30.5$ )と大幅悪化した。「3 ヶ月後」の予想は $\Delta 9.0$ で前回の $\Delta 8.3$ からやや悪化した。総体的には主要取引先からの受注が減少傾向で推移している。小ロットの受注が主体で、量産が減少している。ただ、一部で量産に向けた動きもある。プレス業界ではコストダウン要請が厳しくなりつつある。

### ● 一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など)

業況判断DIは「3 ヶ月前」と比べて $\Delta 14.8$ で、前回の $\Delta 22.2$ からやや改善した。「前年同期比」は $\Delta 51.9$ で、前回と同率だった。「3 ヶ月後」の予想は $\Delta 7.4$ で、前回の $\Delta 29.6$ から好転した。好調に推移していた省力化機械は、一部で受注キャンセルや納期延長が発生している。取引先によって設備投資に対する温度差があり、十分な受注残がある企業にも先行き不安感が出ている。スマートフォンやロボット関連向けの受注は低調だが、医療用検査機関連の受注は堅調に推移している。自動車関連からの受注状況はメーカーによって差がある。

### ● 電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは「3 ヶ月前比」で $\Delta 6.3$ と前回の $\Delta 9.1$ から改善したが、「前年同期比」は $\Delta 31.2$ で前回の $\Delta 22.7$ から悪化している。「3 ヶ月後」の予想は $\Delta 6.2$ で前回の $\Delta 13.6$ から改善した。プリンターやOA機器部品は減少傾向。3月ごろからの在庫調整の動きが復活していないとする企業の一方で、在庫数量減少で実需の受注が出てきたとする企業があり、部品需要の実態が見えにくくなっている。

### ● 輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3 ヶ月前」と比べて $\Delta 15.4$ で、前回の $\Delta 20.0$ からやや改善したが、「前年同期比」は $\Delta 46.2$ で、前回の $\Delta 33.4$ から悪化した。「3 ヶ月後」の予想は $\Delta 7.7$ で、前回の $\Delta 6.6$ からやや改善している。自動車業界は米中貿易摩擦の影響で、中国、インド、インドネシア、米国の伸びが鈍化し、海外メーカーとの競合もある。国内では、経営問題で揺れる日産のリストラと国内外工場の生産能力減少によるコスト削減で、売上高の減少は避けられないとする企業がある。

### ● 精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3 ヶ月前」と比べて $\Delta 9.1$ (前回 $\Delta 20.0$ )と改善したが、「前年同期比」は $\Delta 63.6$ (前回 $\Delta 33.4$ )と悪化した。「3 ヶ月後」の予想は $0.0$ (前回 $\Delta 13.3$ )で改善している。自動車用や工業用センサーレンズが好調で、一眼レフカメラには一服感がある。レンズは、指紋認証、カードリーダー検知器、各種測定器などさまざまな機器に需要が見込まれる。圧力計は比較的安定している。

## ② 規模別業況

業況判断DIは、「3 ヶ月前」と比べて「1～29人」規模は前回の $\Delta 21.9$ から $\Delta 25.4$ へ悪化し、「30～99人」

規模も前回の△2.5から△7.5へ悪化した。「100人以上」規模は前回の△17.6から△6.6へ改善した。「前年同期比」は「1～29人」規模が前回の△42.5から△52.5、「30～99人」規模は前回の△19.5から△35.0、「100人以上」規模は、前回の△17.7から△46.7へそれぞれ悪化した。一方、「3ヵ月後」の予想は、「1～29人」規模が前回の△27.4から△16.9へ改善し、「30～99人」規模も前回の△2.5から7.5と改善しプラス水準となった。「100人以上」規模は前回の17.6から△6.7へ悪化した。

### ③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3ヵ月前」と比べて受注状況DIは「増加」企業 10.5%、「減少」企業 38.6%で△28.1と、前回調査時の△21.3から悪化した。「前年同期比」も△46.4で前回の△31.3から悪化した。「3ヵ月後」の予想は、前回の△9.9から△13.1へ悪化した。

規模別の受注状況DIは、「3ヵ月前」と比べて「1～29人企業」は△35.6で、前回の△23.3から悪化した。「30～99人企業」も△17.5で、前回の△14.6から悪化し、「100人以上企業」は△26.6で前回の△29.4からやや改善した。「前年同期比」は「1～29人企業」が△49.1で前回の△42.5から悪化し、「30～99人企業」は△42.5で前回の△24.4から悪化、「100人以上企業」も△46.7で前回の0.0から大幅に悪化した。「3ヵ月後」の予想は「1～29人企業」が△18.6で前回の△23.3から改善し、「30～99人企業」は△7.5で前回の4.8から悪化し、「100人以上企業」も△6.7で前回の11.8から悪化している。

業種別(主要5業種)の「3ヵ月前比」は、「輸送用機械」は前回の△26.6から△23.1へやや改善したが、「精密機械」が前回の△6.7から△27.3、「一般機械」は△29.6から△33.3、「金属製品」が△30.5から△39.4、「電気機械」は△13.7から△18.8へそれぞれ悪化した。「前年同期比」では、「一般機械」が△59.3から△55.6とやや改善したが、「金属製品」が△30.5から△66.6、「輸送用機械」が△6.6から△30.8、「電気機械」は△18.1から△37.5、「精密機械」は△40.0から△54.5へそれぞれ悪化した。「3ヵ月後」の予想は、「一般機械」が△14.8から△22.2へ悪化した、「輸送用機械」は△20.0から△7.7、「金属製品」は△11.1から△9.0、「電気機械」は△9.1から△6.2、「精密機械」は△13.4から△9.1へそれぞれ改善した。

業種別・規模別受注状況表

表-3

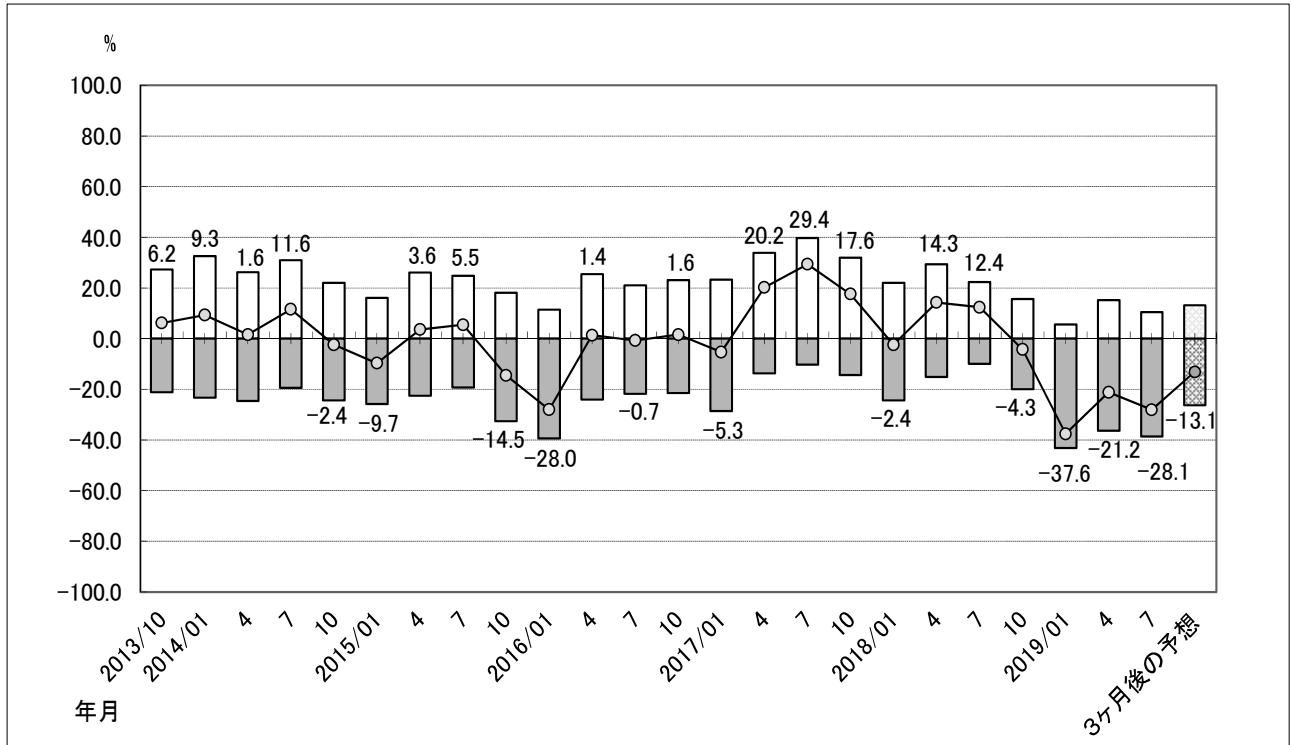
	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	114	10.5	50.9	38.6	-28.1	114	13.2	27.2	59.6	-46.4	114	13.2	60.5	26.3	-13.1	
規模	1～29人	59	10.2	44.1	45.8	-35.6	59	11.9	27.1	61.0	-49.1	59	10.2	61.0	28.8	-18.6
	30～99人	40	12.5	57.5	30.0	-17.5	40	15.0	27.5	57.5	-42.5	40	17.5	57.5	25.0	-7.5
	100人～	15	6.7	60.0	33.3	-26.6	15	13.3	26.7	60.0	-46.7	15	13.3	66.7	20.0	-6.7
中分類	金属製品製造業	33	12.1	36.4	51.5	-39.4	33	6.1	21.2	72.7	-66.6	33	15.2	60.6	24.2	-9.0
	一般機械器具製造業	27	7.4	51.9	40.7	-33.3	27	3.7	37.0	59.3	-55.6	27	14.8	48.1	37.0	-22.2
	電気機械器具製造業	16	12.5	56.3	31.3	-18.8	16	25.0	12.5	62.5	-37.5	16	18.8	56.3	25.0	-6.2
	輸送用機械器具製造業	13	7.7	61.5	30.8	-23.1	13	15.4	38.5	46.2	-30.8	13	7.7	76.9	15.4	-7.7
	精密機械器具製造業	11	0.0	72.7	27.3	-27.3	11	18.2	9.1	72.7	-54.5	11	0.0	90.9	9.1	-9.1



製造業の受注状況DIの推移

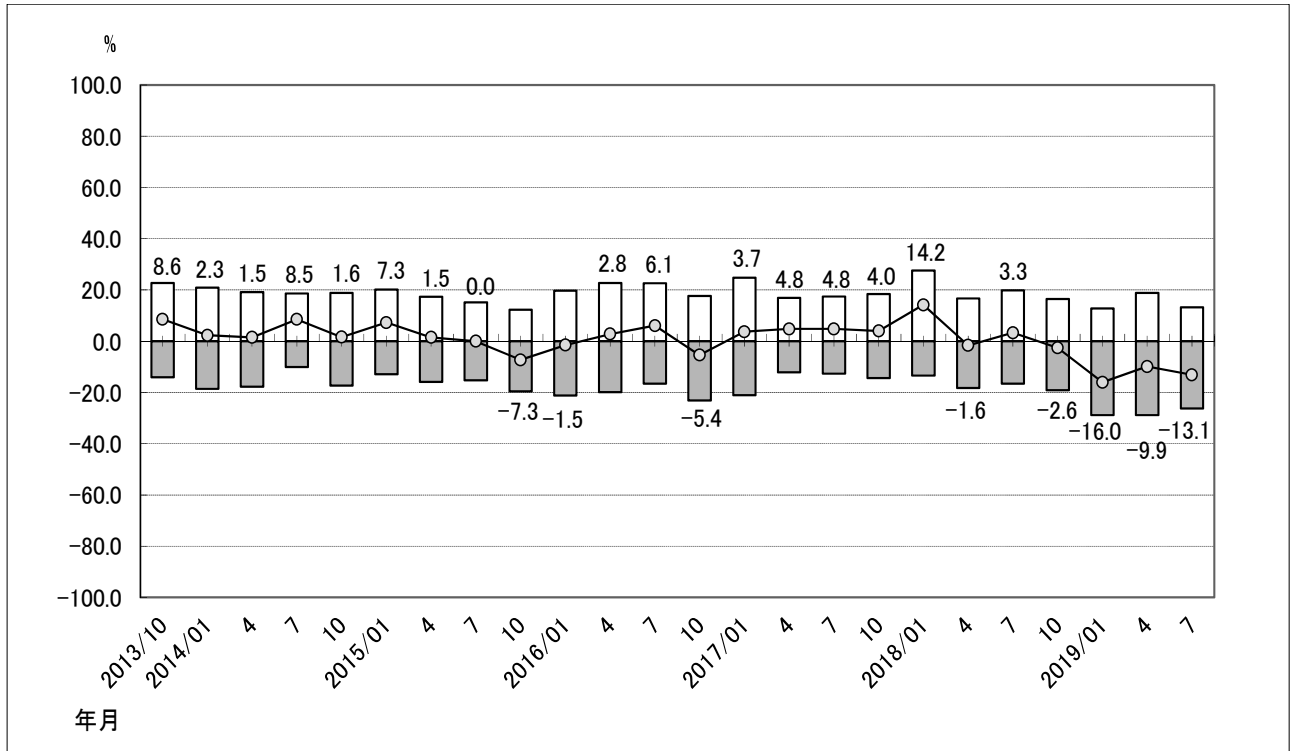
●製造業全社:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



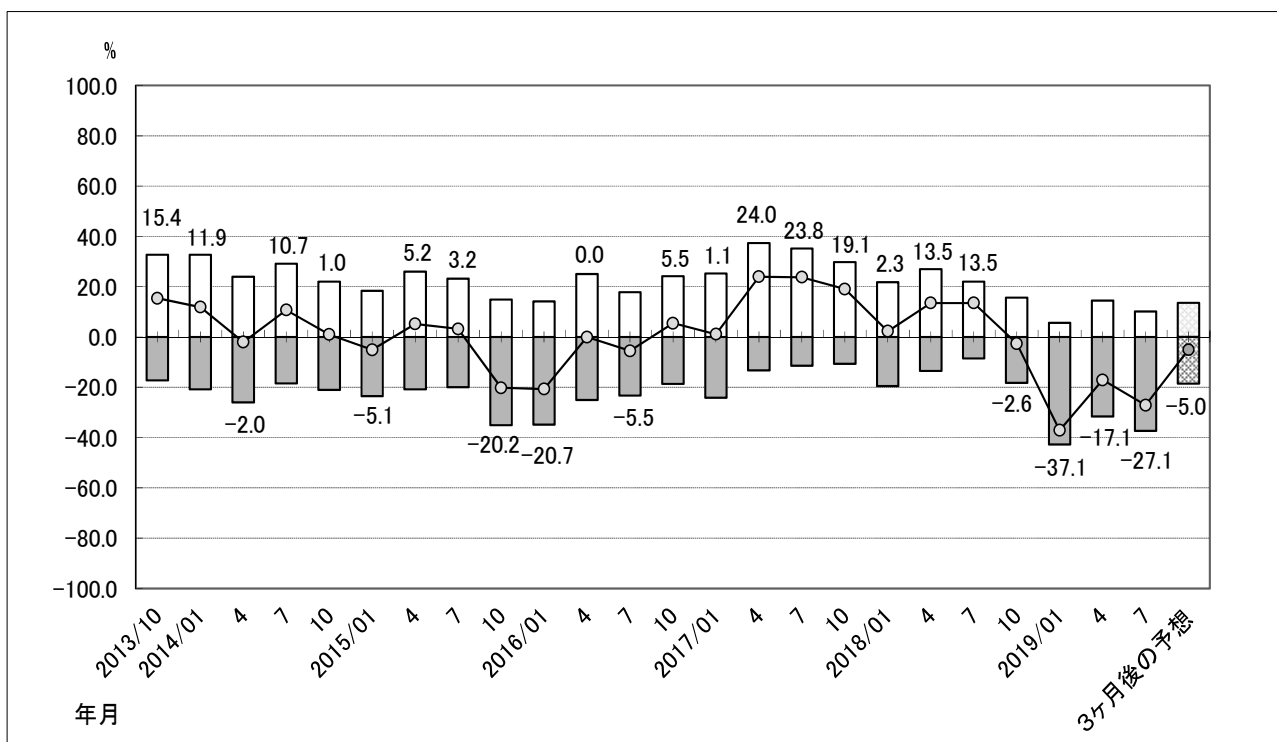
●製造業全社:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



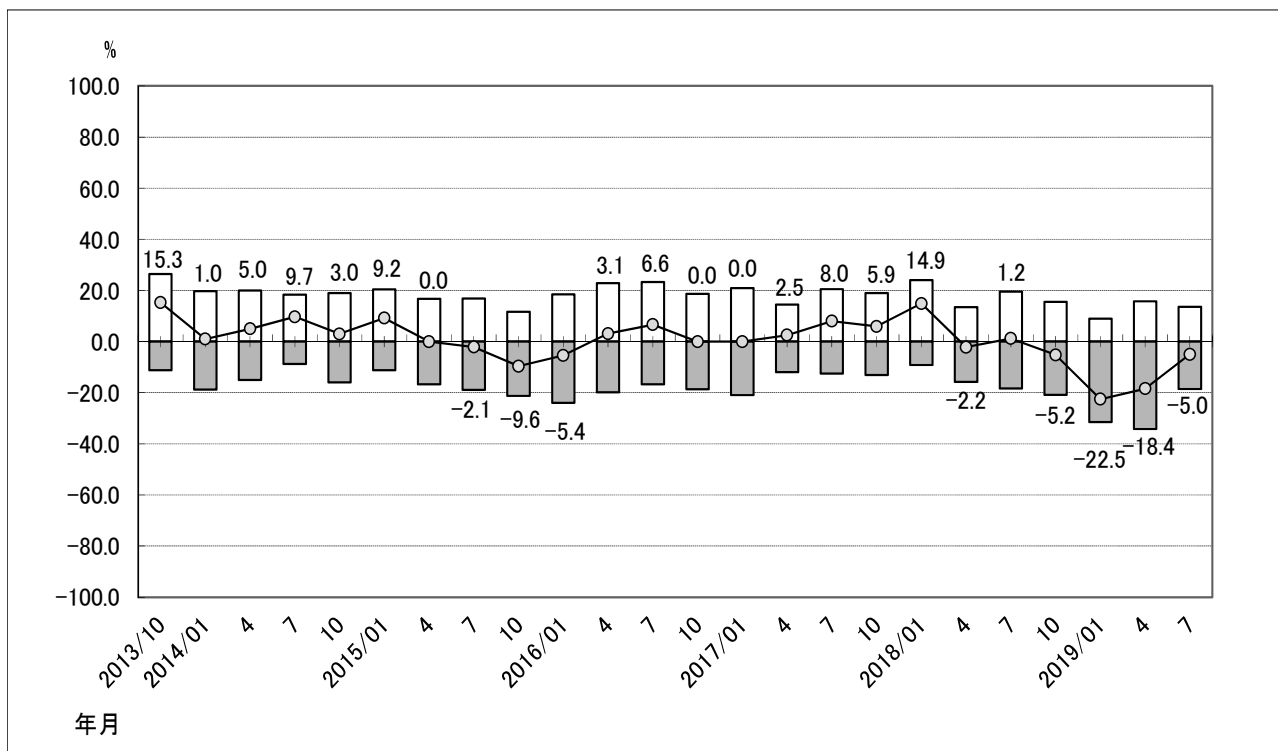
●製造業 主要5業種:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



## 2. 商業・観光サービス業

### ① 商業

天候不順の影響で、前年同期比の来店客数DIは△24.0 と、前回の△3.7 から大幅に悪化し、売上DIも前回の△7.4から△28.0へ悪化した。増税前の駆け込み需要は、過去の増税時に比べて目立たっていない。事業者は、消費増税前の駆け込み需要に期待する一方で、増税後の買い控えも懸念している。

- 家電 エアコンは昨年の猛暑で保育園や小中学校で設置が進んでいる。高齢者世帯を中心に一般家庭でも需要が増加している。
- 自動車 諏訪地方の7月の車庫証明件数(軽自動車除く)が1,089件で、前年同月比では164件増加(17.7%)した。
- 書店 芥川賞、直木賞の発表があったが、盛り上がりには欠けている。嵐のアルバムや森口博子40周年のアルバムが伸びた。
- ガソリンスタンド 長雨や低温で行楽需要が伸びず、ガソリン販売は低調だった。
- 飲食店 天候不順に加え、参議院選挙の影響で宴会予約が減少した。
- 野菜直売所 低温で野菜の生育が悪く、全般的に品薄傾向で、価格も高めだった。長雨の影響を受け、観光客の入り込みも悪かった。

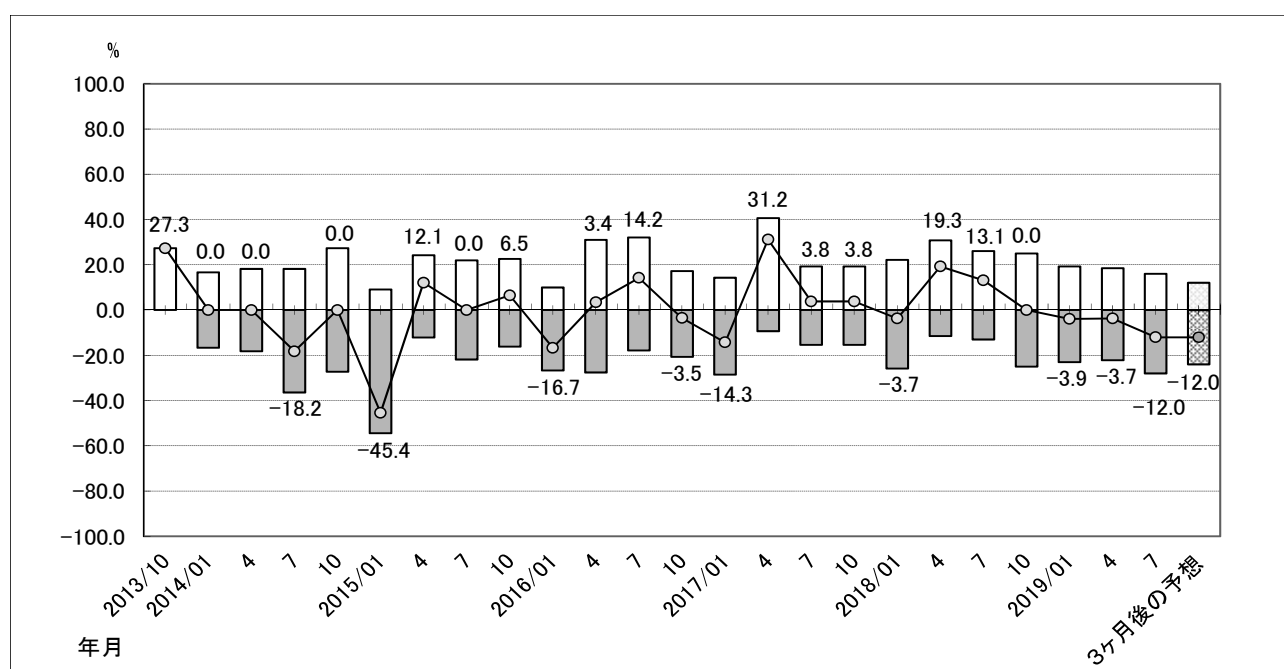
### 業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	25	16.0	56.0	28.0	-12.0	25	12.0	60.0	28.0	-16.0	25	12.0	64.0	24.0	-12.0
客単価	25	16.0	60.0	24.0	-8.0	25	24.0	56.0	20.0	4.0	25	16.0	72.0	12.0	4.0
来店客数	25	16.0	44.0	40.0	-24.0	25	20.0	36.0	44.0	-24.0	25	16.0	44.0	40.0	-24.0

### ●商業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



## ② 観光・サービス業

各地の観光施設では、天候不順の影響が大きく表れた。前年同期比で宿泊客数DIは9.1で、前回の46.1から大幅悪化した。先行きは増税対策に苦慮する施設が多い。蓼科方面では民間大手法人の投資が活発になり、エリア全体の活性化が期待されている。

- 上諏訪温泉 1～4 人の利用者が減少したが、5～14 人の小規模団体、30 人以上の団体が前年同月を上回った。方面別では関越、近畿方面が前年を上回った。インバウンドは前年同月比減少し低調。ビアガーデンも振るわなかった。増税、円高、株安、景気後退の負のスパイラルで消費マインドが低下することが危惧される。
- 下諏訪温泉 個人の宿泊予約は堅調だが、前半の悪天候で予約キャンセルが発生した。
- 蓼科・白樺湖 梅雨明けが遅く、トレッキングや散策客の入り込みに影響した。首都圏からの観光客が少なく、ロープウェイやパラグライダー、星空観察会などの屋外の施設利用やイベントは低調だった。日帰り温泉利用も少なかった。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた7月の参拝者数は約6万4千人で、前年同月比約2千人増加(3.9%)した。

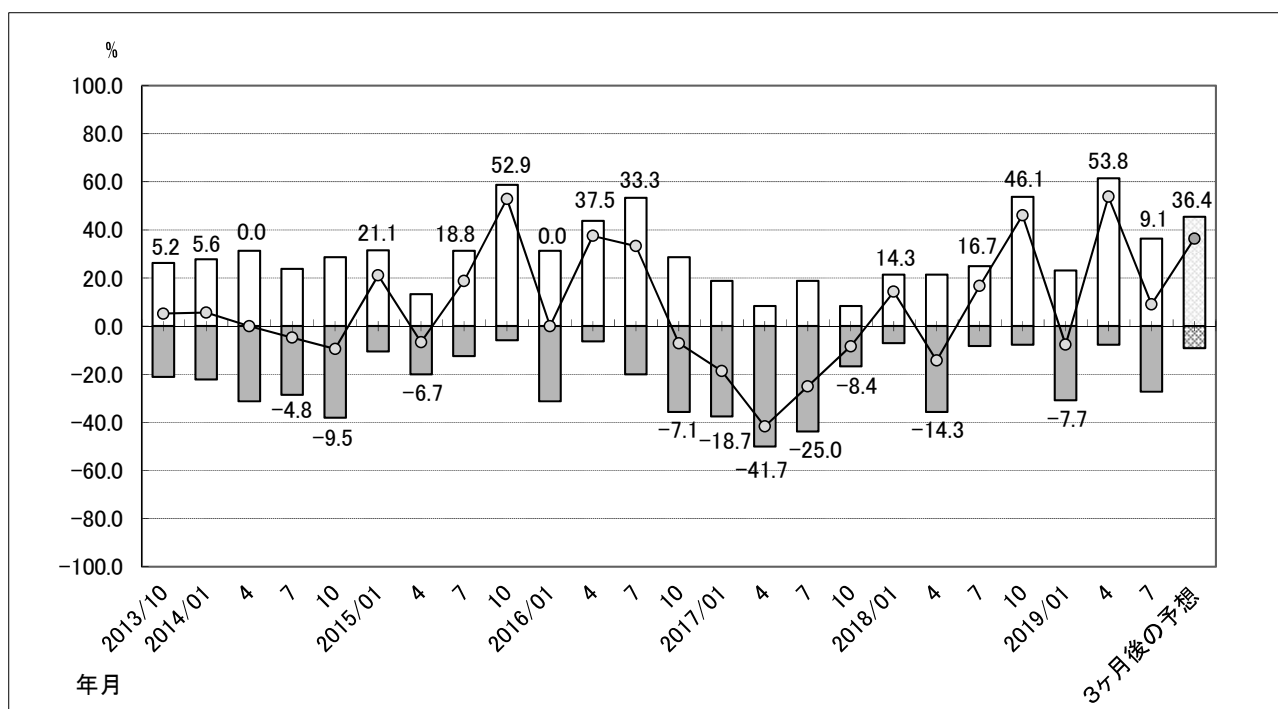
業況、売上、宿泊客

表-5

	3カ月前と比べて					前年同期と比べて					3カ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	11	72.7	18.2	9.1	63.6	11	36.4	36.4	27.3	9.1	11	45.5	45.5	9.1	36.4
客単価	11	54.5	36.4	9.1	45.4	11	36.4	45.5	18.2	18.2	11	36.4	36.4	27.3	9.1
宿泊客数	11	81.8	9.1	9.1	72.7	11	36.4	36.4	27.3	9.1	11	45.5	36.4	18.2	27.3

## ●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



### 3.建設業

「3ヵ月前」と比べた収益性DIは△7.7で前回の0.0から悪化した。外注発注量DIは15.4で前回の△5.3から改善した。資金繰りDIは前回の0.0から△7.7へ悪化した。「前年同期比」では、業況判断DIは△7.7で前回の△5.0から悪化し、受注状況DIは前回の△20.0から△7.7へ改善した。「3ヵ月後」の予想DIは、受注状況が23.1(前回△10.0)で改善し、業況判断も23.1で前回の△5.0から改善した。諏訪地方の2019年4月～6月の新設住宅着工戸数は持家199戸、貸家55戸、分譲92戸、給与0戸で、合計346戸となり、前年同期比で124戸、55.9%増加した。

#### ●建築工事

諏訪地方の2019年6月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市21戸、諏訪市23戸、茅野市41戸、諏訪郡18戸の合計103戸だった。長野県全体の6月の新設住宅着工戸数は1,216戸で、前年同月比3.9%増加した。持家は9ヵ月連続の増加、分譲は4ヵ月連続の増加となった。

#### ●公共工事

7月の市町村からの受注工事は、建築工事1件3,230百万円、土木・水道工事64件649百万円、その他工事29件472百万円だった。

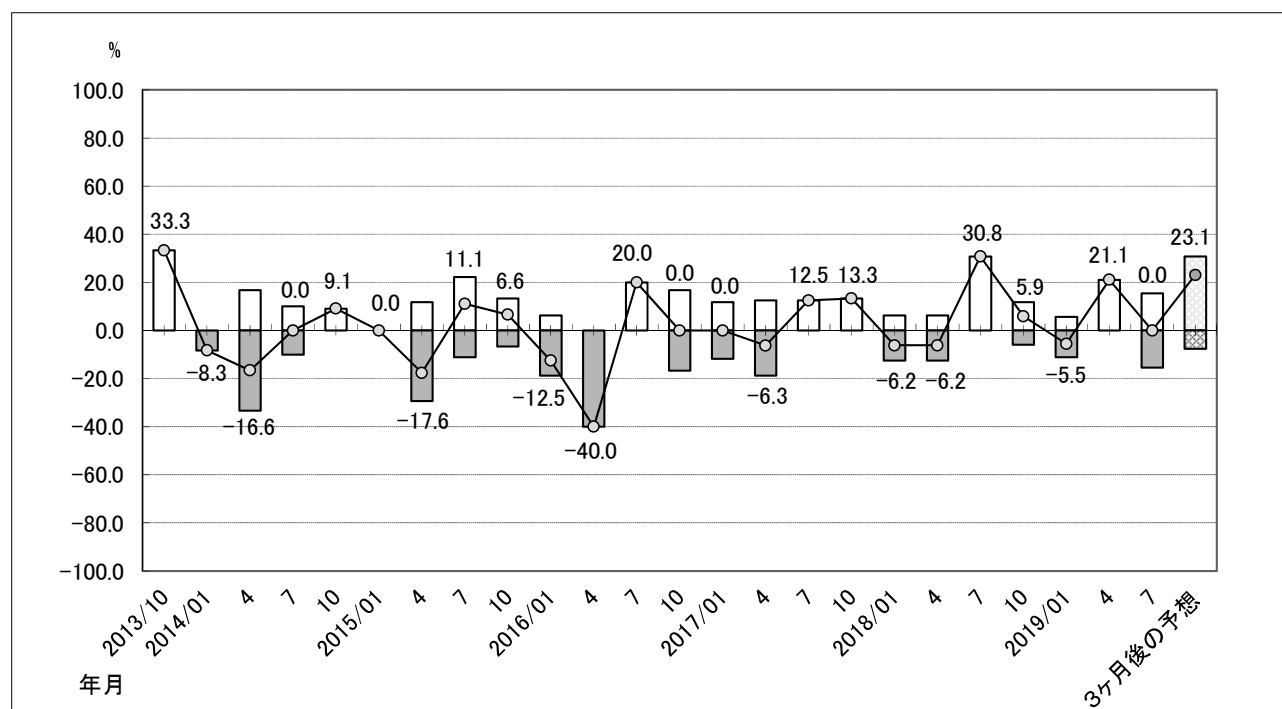
業況、受注状況、外注発注量

表一6

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	13	15.4	69.2	15.4	0.0	13	15.4	61.5	23.1	-7.7	13	30.8	61.5	7.7	23.1
受注状況	13	46.2	23.1	30.8	15.4	13	23.1	46.2	30.8	-7.7	13	30.8	61.5	7.7	23.1
外注発注量	13	38.5	38.5	23.1	15.4	13	30.8	38.5	30.8	0.0	13	46.2	53.8	0.0	46.2

#### ●建設業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー10



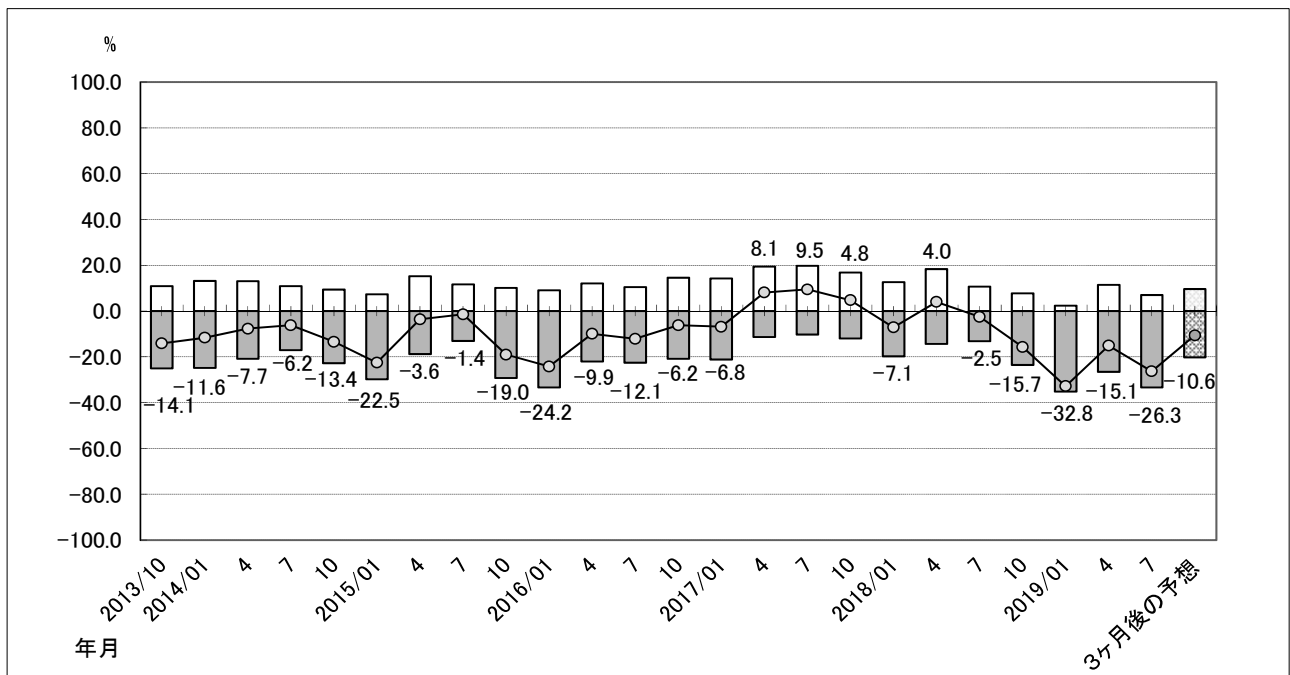
#### 4.収益性状況

回答全社の「3 ヶ月前」と比べた収益性は「好転」企業 11.0%、「悪化」企業 28.2%で、同DIは△17.2 と前回調査時の△7.7 から悪化した。「前年同期比」も△26.4 で、前回の△17.1 より悪化している。製造業は「3 ヶ月前」と比べて△26.3 で前回の△16.0 より 10.3 ポイント悪化し、非製造業は 4.1 で前回の 9.7 より 5.6 ポイント悪化している。

「3 ヶ月後」の予想DIは、製造業が△10.6 で前回の△14.5 よりやや改善し、非製造業は 4.1 で前回の 12.9 から悪化している。回答全社では△6.1 で、前回の△5.7 よりやや悪化した。

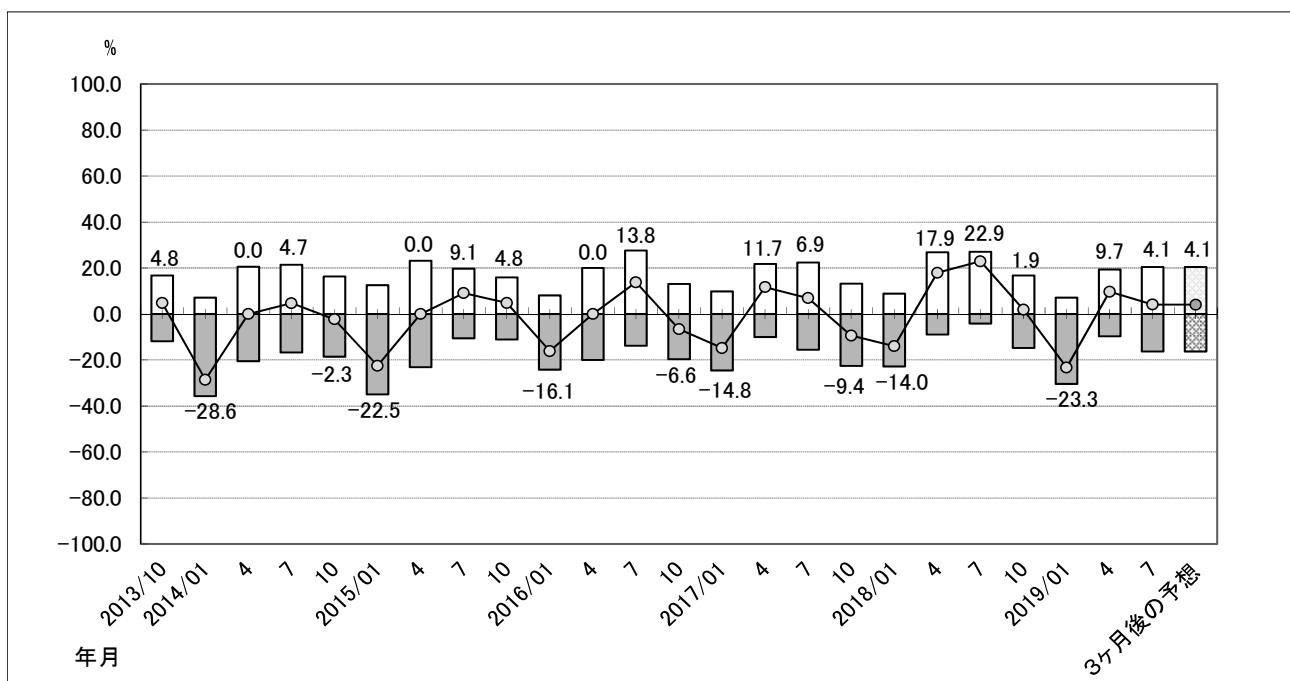
##### ●製造業:3 ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー11



##### ●非製造業:3 ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー12



## 5.経営上の課題

経営上の課題として①製造業は売上減少と労働力確保②商業は売上減少と労働力確保③建設業は労働力確保と競争激化④観光・サービス業は労働力確保、売上減少、資金繰りとなっている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	92	70	14	3	5
単価引下げ	17	12	2	1	2
競争激化	38	25	6	5	2
資金繰り	30	17	6	2	5
人件費	37	23	6	4	4
労働力確保	68	40	11	10	7

## 6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【6月】	ハローワーク諏訪	1.54倍	△0.09ポイント	
手形交換高【7月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	5,130枚	△581枚	
	金額	6,553百万円	△1,181百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	0枚	△1枚
	金額	0千円	△500千円	
車庫証明取扱件数【7月】(諏訪地方合計)		1,089件	17.7%	
新設住宅着工戸数【2019年4月～6月】(諏訪管内)		346戸	55.9%	

## 7.調査概要

DI調査:業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ① 調査期間 2019年7月末。
- ② 調査内容 「2019年7月末」の実績と、「3ヵ月前」と「前年同期」の業績比較および「3ヵ月後」の予想。
- ③ 調査方法 アンケート調査およびヒアリング調査(約130社)。
- ④ 回答企業数 163企業。
- ⑤ 回答率 65.2%。

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	170	40	20	20	250
回答数	114	25	13	11	163

「諏訪の景気動向」についてのご意見、ご要望は  
諏訪信用金庫 総務部へ  
電話 0266-23-4567